

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 7 月 18 日 (2013.7.18)

【公表番号】特表 2010-505986 (P2010-505986A)

【公表日】平成 22 年 2 月 25 日 (2010.2.25)

【年通号数】公開・登録公報 2010-008

【出願番号】特願 2009-530870 (P2009-530870)

【国際特許分類】

C 0 8 F 2/00 (2006.01)

C 0 8 F 2/40 (2006.01)

C 0 8 F 20/06 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 2/00 Z

C 0 8 F 2/40

C 0 8 F 20/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 25 年 5 月 28 日 (2013.5.28)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

- a) 少なくとも 1 つのエチレン性不飽和モノマー、
- b) 少なくとも 1 つの架橋剤、
- c) 少なくとも 1 つの開始剤、
- d) 水

を含有する液滴を、該液滴を取り囲んでいる気相中で重合させることによる吸水性ポリマー粒子の製造法において、開始剤 c) をモノマー溶液に、液滴作製の 0.5 ~ 60 秒前に添加することを特徴とする、吸水性ポリマー粒子の製造法。

【請求項 2】

前記開始剤 c) を前記モノマー溶液に添加した後、前記液滴作製の前にスタティックミキサーで混合することを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記モノマー溶液の酸素含有量が少なくとも 1 質量 ppm であることを特徴とする、請求項 1 または 2 記載の方法。

【請求項 4】

前記モノマー溶液が、前記エチレン性不飽和モノマー a) に対して、160 質量 ppm 未満の重合禁止剤を含有することを特徴とする、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 5】

前記重合禁止剤がヒドロキノンモノメチルエーテルであることを特徴とする、請求項 4 記載の方法。

【請求項 6】

前記液滴が少なくとも 200 μm の平均直径を有することを特徴とする、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 7】

前記モノマー a) が少なくとも 1 個の酸基を有することを特徴とする、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 8】

前記モノマー a) の酸基が、少なくとも部分的に中和されていることを特徴とする、請求項 7 記載の方法。

【請求項 9】

前記モノマー a) の少なくとも 50 モル% がアクリル酸であることを特徴とする、請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 10】

得られた前記ポリマー粒子を、少なくとも 1 つのさらに別の方法工程において乾燥および/または後架橋させることを特徴とする、請求項 1 から 9 までのいずれか 1 項記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0001

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0001】

本発明は、モノマー溶液の液滴を、該液滴を取り囲んでいる気相中で重合させることによる吸水性ポリマー粒子の製造法に関し、その際、開始剤をモノマー溶液に、液滴作製の 0.5 ~ 60 秒前に添加する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

該課題は、

- a) 少なくとも 1 つのエチレン性不飽和モノマー、
- b) 少なくとも 1 つの架橋剤、
- c) 少なくとも 1 つの開始剤、
- d) 水

を含有する液滴を、該液滴を取り囲んでいる気相中で重合させることによって吸水性ポリマー粒子を製造する方法において、開始剤 c) をモノマー溶液に、液滴作製の 0.5 ~ 60 秒前に添加することを特徴とする方法によって解決された。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

開始剤 c) は、モノマー溶液に、液滴作製の好ましくは 0.8 ~ 45 秒前に、とりわけ有利には 1 ~ 30 秒前に、極めて有利には 1.2 ~ 15 秒前に添加される。